

テントの種類・選び方／張り方のポイント

- 知っておきたいテントのタイプ
 - テントの『構造』による違い
 - テントの『形状』による違い
 - テントの『設営方法』による違い
- どんなテントを選ぶべきなの？
 - キャンプ用テントを選ぶときのポイント
 - あなたはどのタイプのキャンパーですか？
- テントの上手な張り方のポイント
 - テントを設営する場所の地面、周囲に注意する
 - テントを上手に張るコツ！
 - 上手くテントを張るために覚えておきたいこと！

• 知っておきたいテントのタイプ

➢ テントの『構造』による違い

キャンプ用テントの構造には大きく分けて2種類あります。1枚の壁で作られた「シングルウォール」テントと、2枚の壁で作られた「ダブルウォール」テントです。どちらも一長一短ありますので、自分に適したテントを見つけましょう。

◇ シングルウォール

ポップアップテントなどの単純な構造に多く見られる。設営が簡単で軽量化されているためツーリングなどには適していますが、「フライシート」と呼ばれるテントをカバーするシートがないため、結露しやすかったり、テント内が蒸れやすかったり、前室がなかったりと不便な点もあります。

しっかりと一泊する必要があるオート(ファミリー)キャンプの場合は不向きと言えます。軽量化が求められる登山用テントには多くの種類があります。

◇ ダブルウォール

登山用のテントからファミリーキャンプ用のテントまで幅広く使われるテントの定番。インナーと呼ばれる室内部分と、それを覆うように被せるフライシートと呼ばれる外壁部分とを組み合わせた構造となっており、雨風を凌ぐだけでなく通気性にも優れており、テントの内部がサウナ状態になるのを防ぎつつ、**結露が発生しにくい構造**です。

⇒ 高温多湿・雨が多い日本では、如何に蒸れ／結露を避けるか？が重要

➢ テントの『形状』による違い

テントの形状は設営や撤収の簡単さだけでなく、テントを使用した際の居住性にも大きく関わってくるため、キャンプ初心者であれば自分の好みや使用環境に合わせて適切な形状を選ぶのが重要となります。

テントの形状にはここで書ききれないほどの種類がありますが、その中からオートキャンプやファミリーキャンプといった場面で多く使用される初心者にお勧めとなるテントの形状を紹介します。

テントの形状ごとにどのような特徴があるのか、また自分に合ったテントはどのタイプなのかを見つけてください。

◇ ドーム型テント

テントの中では最もオーソドックス、定番。初めてのテントを選ぶとしては最も無難とされます。収納も比較的コンパクトで持ち運びがしやすいといえます。

基本的に 2 本のポールをクロスさせてテントを支える構造の為、設営時間も慣れれば 1 人で作業して 10 分以内で組み立てられます。

インナーテントを、ポールを通すことで支えるのか、ポールから吊り下げるのか、等といった違いがあり、使う人の好みが分かれるところです。

⇒ 雨天の撤収時に差が出る

一方、リビングスペース確保の為には、基本的に別途「タープ」の使用が必要となります。

夏場などは、テント内が非常に暑くなりやすい為、ベンチレーション[フライ]やメッシュ[インナー]が使用されているタイプのテントを選ぶことをお勧めします。

◇ ロッジ型テント

文字通り、小屋のような形をしたタイプのテント(ボーイスカウトのイメージ)。寝室とリビングを同時に実現でき、居住性の高さは抜群。テントの中では最も歴史が古い一方、収納時の大きさと重量がネックで、最近では見ることは少なくなっています。

ポールを組み立て、シートを被せるだけなので、設営は簡単です。

◇ ツールーム型(ロッジドーム型)テント

ドーム型テントにリビングスペースを追加、もしくは一体化しているタイプのテント。「ツールームテント」や「オールインワンテント」、もしくは「ハイブリッドテント」、「ロッジドーム型テント」などと呼ばれることもあります。

最近の主流ともなっている。

ドーム型テントなどについている小さな前室とは違い、屋根のついた広々としたリビングスペースを確保出来るため、急な天候の悪化に対してもドーム型に比べて対応しやすいといえます。

デメリットとすると、収納時の重量がかなり重くなるということと、構造が複雑となるため初心者には設営がやや難しいという点(事前練習は必須と思います)。

また、設営にかなりのスペースを必要とする為、キャンプ場によっては張れないことも。

◇ ワンポール型(モノポール型・ティピー型)テント

ポール 1 本で支える独特な形状のテント。ポール 1 本のみの為、他のテントに比べ軽量で持ち運びやすく、収納もコンパクトに収まります。

スタイリッシュな為、グランピングを志向する人達に人気がある。

一方、テント自体では自立しない為、周囲のペグ打ちが重要となります。その為、初めてのテントにワンポール型を選ぶ場合、上手くペグ打ちができないとテントが張れない、ということになりかねないので注意してください。

また、中央にポールが来るため、テント内でテーブルを使ったりする場合には邪魔になるケースもあります。

➤ テントの『設営方法』による違い

◇ ポップアップ式テント

最も手軽に設営できるテントのタイプです。設営は楽ですが、多くのものがシングルウォールである為、炎天下では室内はサウナ状態となる一方、夜は結露し、雨が降った場合には浸水する等、宿泊キャンプでの使用には向いていません。

◇ ワンタッチ式テント

巨大な折り畳み傘を開くような構造となっており、設営時間も非常に短い一方で、相応にしっかりしたテントが建てられる為、特に初心者の間では人気の高いテントです。

ダブルウォールタイプのものや、ベンチレーションがついたものなど、装備的にもしっかりしたものもある一方、強風でポールが折れた場合に修復が効かないなど、利便性に欠ける場合もあるので注意してください。

本格的なオートキャンプを目指すのであれば、あまりお勧めはしません。

◇ 自立式テント

地面にペグを打ったりロープを使用して張ったりする必要なく、ポールのテンションだけで自立し、テントの形になってくれるタイプのことを言います。

もちろん風が強い場合には飛ばされてしまうため、ペグを打つ必要はありますが、ペグの打ち方やロープの張り方でテントが崩れる訳ではないので、テントの設営に慣れていない初心者の場合には自立型テントから選ぶのが無難です。

雨の日などに作業がしやすいよう、フライシートのみで自立するためのグランドロープを使用するタイプもあります。

◇ 非自立式テント(ティピー、ツェルト)

ペグを打ってロープを張る必要があるため、地面がコンクリートだったり固かったりするとテントが張れません、またテントを張るのにも技術が必要となりますので、非自立式テントを初心者が選ぶ場合は、ある程度近所の公園などで練習を行い、自分だけでテントが建てられるようになっておくことが必要です。

ただ、登山や自転車ツーリングなど、装備を軽量にする必要がある場合には、大きな魅力となります。

• どんなテントを選ぶべきなの？

➤ キャンプ用テントを選ぶときのポイント

◇ テントのメーカーと値段に注目！

大きく2つに分けられ、その価格は大きく異なります。ベーシックメーカーもコストパフォーマンス的には高く、不満はないのですが、雨天等の使用が続いた後や炎天下での室内の快適さ、永久修理保証等、細かな部分で差が出てきます。

雨の多い日本では、日本メーカーの心配りが効いてきたりもします。

「ベーシックメーカー」(キャンプ場の定番ブランド)

- ✓ コールマン(Coleman)
- ✓ ログス(Logos)
- ✓ ドッペルガンガー(Doppel Ganger)
- ✓ ケシュア(Quechua)

「ハイスpekメーカー」(登山用テントも含む)

- ✓ スノーピーク(Snow Peak)
- ✓ キャンパルジャパン(Ogawa Campal)
- ✓ アライテント(RIPEN)
- ✓ ダンロップ(DUNLOP)
- ✓ モンベル(mont-bell)
- ✓ MSR(Mountain Safety Research)

本日の指導者のテントも(皆さんが借りているのもの)、それぞれの試行錯誤の末、最終的に行きついたものです。『なぜ、そこに行きついたのか?』『どう考えたのか?』など、気軽に声をかけ、中を見せて貰いましょう。

◇ 雨キャンプに備えて耐水圧に注目!

初心者がテントを選ぶ際に性能面で最も注意すべきポイントは『耐水圧』です。

テントにおいて耐水圧というのは簡単に言ってしまうと雨(上側)と浸水(床側)に対する性能です。耐水圧が低いテントを雨の中で使用していると浸水することがあり、寝袋ごとビチョビチョに濡れて寒さで目がさめた、なんて事もあります。

テントのスペック表を見てみると耐水圧の項目がありますが、1つの目安としては耐水圧1500mmです、通常の雨であればテントの中は無事に済みます。

しかし雨が長期間続くケースや、ゲリラ豪雨、地面が池のようになってしまった場合等、本格的にキャンプを行う場合には耐水圧2000mm(個人的には3000mm以上。Ogawaの床部分は10000mm超!)以上のテントの方が望ましいのですが、耐水圧に比例して値段も上がるため、そこは財布との相談になるのでしょうか。

◇ 使用人数に合わせたテントの広さを選ぶ!

テントにおける人数の表示は、登山などでシュラフに入った人がビッシリ寝た場合に泊まることが出来る人数となっていますので、選ぶ場合には表示人員マイナス1~2名となります。目安としては、大人2人子供2人の場合、床面積が「270cm×270cm」~「300cm×300cm」(5~6人用)程度あれば、荷物を室内に入れてもゆとりをもって過ごせます。一方、あまり大きくなると、早春・晩秋には室内が寒く感じることもあります。初心者で『暖かい時期にしかキャンプをしない!』ということであれば、「大は小を兼ねる」という考え方で良いと思います。

➤ あなたはどのタイプのキャンパーですか?

◇ とにかく設営と撤収が**簡単**でチャチャッとできるテントがいい!

居住性や快適性のある程度犠牲にしても、設営に重きをおいたワンタッチテントなどのタイプがおすすめ

ある程度テントの設営を練習してからキャンプに行く覚悟があるのなら、ワンポールタイプのテントもアリだと思います。

◇ テントはなるべく**安い**もので、とりあえずキャンプに行きたい!

これから先、何度キャンプに行くかわからないけど、みんなでキャンプに行くことになったし安くテントを揃えたい!という初心者の方にオススメなのはキャブテンスタッグやドッペルギャンガー、ノースイーグルといったメーカーのテントでしょうか?アウトドアショップのオリジナル製品なども該当すると思います。

ただ生地の水撥水性やテントの素材は、有名なメーカーと比べて劣りますので、悪天候の中

でキャンプをするとストレスを感じることも多くなると思います

- ◇ それなりの機能性を持ったテントを買って安心してキャンプしたい！
ベーシックメーカーのハイグレード製品や、ハイスペックなメーカーから出ている入門用テントです。性能の面でも安心感が高く、高機能なのにお値段もお手頃ですから、本格的なキャンプもしっかりこなせる性能のテントが欲しいという初心者さんにおすすめです。
ネット等では、コールマンのタフワイドドームやスノーピークのアメニティドーム等が該当します。
- ◇ 初期投資にそれなりの額を払って良いテントを買って長く使いたい！
キャンプにハマる人の多くは(本日ここにいる指導者がまさにそうですが)、安価モデルのテントでのキャンプ中に悪天候を経験して、このクラスのテントを購入するというパターンが多く、自分はキャンプにハマりそうだなと思う場合は最初からこのクラスのテントを選ぶことでコストを抑えられます、非常に快適なテントライフが待っています。
- ◇ 広い居住空間を持ったテントがいい！
上記とは少し切り口が変わりますが、折角のオートキャンプなので荷物は大きく、重くても良い、テントとタープが一体となっている方が設営も楽ちんで良い！という人は、ツールーム(ロッジドーム)型から選ぶと良いでしょう。
- ◇ 将来はソロ／登山？／ツーリング？ (おまけ)
子供が大きくなると、独りでキャンプに行くことも多くなります。山に登ることも増えます。すると、自らの足でテントを持ち運ぶ為、如何に軽量・コンパクトに収納できるか？がポイントになります。
現在、我が家はボーイスカウト指導者になった息子と自分(親父)とで、登山用テントを奪い合う日々です。。

• テントの上手な張り方のポイント

- テントを設営する場所の地面、周囲に注意する
「どこにテントを張るのか？」というのは、キャンプにおいては実は非常に重要です。
極端に言ってしまうと、地盤の安定しないところ、水浸しになってしまいそうなところに家(テント)を建ててしまうと、安全に住むことが出来ないばかりか、折角の楽しいキャンプが家族喧嘩の原因にもなってしまいます、ということです。テントの設営場所を決めるところから、上手なテントの張り方というのは始まっているのです。
- ◇ 雨の溜まりにくい場所を選ぶ！
テントを張る際にまず注意したいのは、水はけの良い場所を選ぶこと
普段からジメジメしている場所や、窪地になっている様な場所は、ひとたび雨が降ればテントが水に沈んでしまいます。
もしそのような場所にテントサイトを割り当てられてしまった場合には、少し傾斜のある場所に、入り口を上流に向けない様にテントを張る、テントの周辺に溝を掘ったりして人工的に水の流れを作り、テントの下に水が流れ込まないような工夫をしましょう。
- ◇ 日陰や木の下などにテントを張る
真夏など、昼間の太陽は非常に強く、テントの中はサウナ状態になります。広場に一本だけ木が生えているようなケースでは落雷の危険性も高くなる為注意が必要ですが、梅雨の時期やゲリラ豪雨等の際など、木の下にテントを張っていれば、樹木が天然の傘の役割を果たしてくれることに加え、木の根の付近は水捌けも良い為、テントを張るのには好都合

の場所です。

一方、木の下では、虫や樹液が落ちてくるという考え方もある為(特に、樹液や果実等はテントに付くと洗い落とすのが大変)、考え方は人それぞれです。あくまで参考程度に捉えてください。

◇ 河川敷や浜辺など水位が変化する水辺には注意！

夏や台風の時期にテレビ等で見るがありますが、河川敷などは上流での雨やダム放流等による水位の急上昇によりテントごと流される危険性もある為、十分な注意が必要です。(思った以上に急激に推移は上昇します！/海辺などでの津波の危険性も同じ) サイトを予約する際にも、意識するようにしてください。

➤ テントを上手に張るコツ！

◇ グランドシートはテントより小さめになるように敷く

テントの下に敷き、テント底面を石などの傷や水分から守るのがグランドシートですが、テントのフライシートよりも広い状態で敷かない様に注意が必要です。

✓ フライシートよりも広い状態で敷いてしまうと雨が降った際にフライシートから滴った雨がグランドシートの上に溜り、水の上にテントが浮かぶことに。最悪テントに浸水する可能性があります。グランドシートはテントより若干小さく(山折りに)畳んで敷くようにすれば問題は避けられます。

◇ テントの入口から風が吹き込まない方向にする

テントの入口を風上に向けて設営してしまうと、突風が吹いてきた時にどんなにしっかりロープを張りペグを打っていても、最悪テント自体が決壊する可能性があります。

必ず風がどの方向から吹いているのかチェックしましょう。

また、入口を風下に向けないと、埃や砂、風雨がテント内に吹き込んで来てしまいます。テントを張りペグを打った後では向きを変えるのが大変ですので、設営を始める前に、どの向きに入口を設定するのかをよく考えましょう。

因みに、川沿いの場合には上流から下流に風が吹くことが多いので、下流に向けて設営すれば、水の侵入も避けやすくなります。海・湖沿岸の場合には、海・湖と陸との間を往復するように風が吹くので、風に対し側面を向けるように設営するのがポイントです。

◇ ペグはしっかり打ち込む

ペグを打つ場合には、地面に対して直角に打ち込むのではなく、張っているロープに対して直角になるようにしっかりと打ち込みます。その際、地面の硬さが緩いと感じる場合は、ペグの打ち込み場所・設営場所を変更・再検討した方が良いかもしれません。

強風にあおられると、テントそのものが飛んでいってしまう場合があることに加え、しっかりペグを打ち、張り綱を張ることで、結露の防止(フライシートとインナーテントの間に隙間を作る)が図られることや、雨が降った場合の水の逃げ道が作られる効果もある為です。

また、ロープが水平より上の角度で張られた場合、テントの生地が無理な力が加わって、生地が裂けてしまう可能性もあるので注意が必要です。

➤ 上手くテントを張るために覚えておきたいこと！

◇ 風が強い日は風上からテントを設営していく！

風の強い日はテント・タープを張るのは大変です。このような場合、風上から作業していくことが基本です。

例えば、フライシートを張る場合、風上からペグを打ち、インナーテントも広げる前に風上の2か所をペグで止めることで、テント・フライともに風に飛ばされることなく設営することが可能になります。

- ◇ 雨の日は外側からテントを設営していく！
雨の日のテント設営は、フライシートやタープを先に設営して、その中で作業を行えば快適に行えます、インナーテントが吊り下げ式の場合は、先にフライシートを設営してからインナーテントを吊り下げるだけで、雨の日でも快適にテントの設営が行えます。
逆に、撤収の場合には、テント内部を片付けた後、タープの下で、またインナーテントから撤収すれば、テントも自分も濡れずに作業が出来ます。
- ◇ テントの入口を傾きの上側には向けない！
雨が降っていると、川のように水が流れたりテントの周囲に水が溜まったりします。テントの入口を上流側にしてしまうと、最悪雨水が入口からテントの中に流れ込み、それこそテント内が水浸しになってしまいます。また、この場合、風も上側(川の上流等)から吹き込みますので最悪の事態になる可能性もあります。

《まとめ》

- 知っておきたいテントのタイプ
 - テントの『構造』による違い
 - ◇ シングルウォールテント
 - ◇ ダブルウォールテント
 - テントの『形状』による違い
 - ◇ ドーム型テント
 - ◇ ロッジ型テント
 - ◇ ツールーム型(ロッジドーム型)テント
 - ◇ ワンポール型(モノポール型・ティピー型)テント
 - テントの『設営方法』による違い
 - ◇ ポップアップ式テント
 - ◇ ワンタッチ式テント
 - ◇ 自立式テント
 - ◇ 非自立式テント
 - ◇
- どんなテントを選ぶべきなの？
 - キャンプ用テントを選ぶときのポイント
 - ◇ テントのメーカーと値段に注目！
 - ◇ 雨キャンプに備えて耐水圧に注目！
 - ◇ 使用人数に合わせたテントの広さを選ぶ！
 - あなたはどのタイプのキャンパーですか？
 - ◇ とにかく設営と撤収が簡単にチャチャッとできるテントがいい！
 - ◇ テントはなるべく安いもので、とりあえずキャンプに行きたい！
 - ◇ それなりの機能性を持ったテントを買って安心してキャンプしたい！
 - ◇ 初期投資にそれなりの額を払って良いテントを買って長く使いたい！
 - ◇ 広い居住空間を持ったテントがいい！
 - ◇

- テントの上手な張り方のポイント
 - テントを設営する場所の地面、周囲に注意する
 - ◇ 雨の溜まりにくい場所を選ぶ！
 - ◇ 日陰や木の下などにテントを張る
 - ◇ 河川敷や浜辺など水位が変化する水辺には注意！
 - テントを上手に張るコツ！
 - ◇ グランドシートはテントより小さめになるように敷く
 - ◇ テントの入口から風が吹き込まない方向にする
 - ◇ ペグはしっかり打ち込む
 - 上手くテントを張るために覚えておきたいこと！
 - ◇ 風が強い日は風上からテントを設営していく！
 - ◇ 雨の日は外側からテントを設営していく！
 - ◇ テントの入口を傾きの上側には向けない！

作成:IFCC 桜田

参考・引用:一般社団法人日本オートキャンプ協会『ハンドブック』、テント専門ページ | ピントルほか